

溝野地区の紹介



俵野地区より1k余り走ると集落が見えてきます。水田、畑などがきれいに管理されているのが印象的です。

沿革

地図を見ていただくと分かりますように、溝野(みその)地区は木津温泉からさほど距離はありません。夕日ヶ浦温泉に行くぐらいの距離なのですが、地図にありますように山の中にあり、その分遠く感じるのかな?と。溝野地区に行くには二つの道があります。俵野地区に入る直前を左折して小高い山の峠を越していく道、一方、俵野からフルーツライン(久美浜町越え)の入り口より谷間に沿って向かう道。今回は後者の道より地区に入りましたが峠のないのが意外でした。平坦な谷間に沿った奥にある集落の溝野地区は、現在7戸、過去では17戸あったと言います。「俵野地区」などでも紹介しましたが、その昔「おこう野村」から砂嵐を避けて移住した安全な場所である事が、なるほどと理解できます。入り組んだ谷間が砂を止めてくれるイメージが想像できます。



暮らし

昔は山(林業)と稲作農業で生計を立てられていました。また、近年まで織物業の方もおられました。人口の割に山の面積が広いですが、谷間をうまく利用して、区内には水田耕地の面積が4町歩余りあります。俵野地区から溝野区内へ向かう道路を走っている途中に気が付くことは、道路際、畑、水田の際を沢山のトタン板で囲っている光景です。地区の方



の話では「とにかく、イノシシ、鹿などの被害が甚大です。何とかならないか」と大変悩んでおられました。その獣害もさることながら、過去において、この地区の最も大きな悩みは道路であったと言います。集落から木津に出るためには、ほとんど私有地しかなくて、歩く道しか確保できなかったと語ります。当時は桜尾峠を利用して俵野地区、久美浜平田地区へと通り抜けました。現在は俵野からの通り道が舗装路であり平坦路のため車では走りやすくなっています。

湧水の不安

道路はこのように解決できたのですが、現在は飲料水で悩んでおられます。この地区だけの簡易水道が整備されていますが、経年による湧水が顕著になってきています。夏季においては深刻であると悩んでいます。

祭事

祭りは地区南側の山の上にある「真玉(まだま)神社の例祭」で10月体育の日に行われます。天気の良い日は境内で参拝客に餅をふるまい、この時ばかりは他地区から、ご出身者の方なども来られて賑わいます。

その他

農地について溝野地区は水田を荒らすことなく、各家が農地を大事にされています。「荒れた水田、畑はありません」と自信を持って話されていました。